

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、新津圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和5年6月6日（火）9時半から11時まで
参加者	委員：10人 事務局：6人 その他：8人（市役所・区役所・地域包括支援センター）
場所	新津協働センター ホール
内容	<p>1. 開会 新任の委員、新任の関係機関の職員より自己紹介をした。</p> <p>2. 挨拶 可新生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①これまでの振り返り 前任 SC より、令和4年度の可新生活支援体制づくり協議体について報告をした。</p> <p>②これからの方向性について 可美：外出することが難しい人への買い物支援の方法についての協議 新津：今年度は「外出支援」 誰のための／何のための／いつ／どこまでの外出の支援とするかの協議</p> <p>③情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅者向けの買い物支援の方法について 前任 SC より、浜松市南区の移動スーパー実施状況、移動販売および配達事業者の一覧を示し、買い物支援を進めていく際利用が考えられる地域の資源について共有をした。 また、移動スーパーの拠点等にも行くことが難しい人への支援としてスマホ講座を挙げ、在宅で買い物をする方法（ネット注文など）を教える講座を開くことも候補の一つとして紹介した。 ・高齢者の外出支援を進めていくにあたって 前任 SC より、国土交通省「高齢者の移動手段を確保するための制度・事業モデルパンフレット」を参照し地区社協で行う移動支援に関わる制度について説明をした。 <p>④意見交換 テーマ：各地区における今後の取り組みについて 地区ごとに分かれて、意見交換をした。</p> <p>〈可美地区グループワーク報告〉</p> <p>■可美地区のニーズについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援について可美地区では高塚団地にしか困りごとがないのではないかな。

美団地以外の地区はスーパー等の買い物をを行うことが出来る場所が資源として豊富に揃っている。

- ・包括新津より包括には買い物支援以外にゴミ捨て等の相談が多いとの情報提供があった。

⇒買い物支援よりも他の問題があるかもしれない。

■移動スーパーについて

- ・可美地区の買い物支援は高塚団地のつどいの家たんぼぼにとくし丸が来ていたが、4月より一時停止になっている。以前は高塚北サロンに呼びたいとの希望もあったが杏林堂とくし丸はサロンの時間だと来ることが出来ないという回答があった。杏林堂が難しければ今後始まる予定の遠鉄の移動スーパーを呼ぶことも考えられるのではないかと。
- ・サロンで移動スーパーの情報提供をしても呼ばない現状がある。サロン等に呼ぶことが出来れば実際に見ることも出来るので在宅で買い物が出来る資源の紹介につながるのではないかと。呼ぶにしてもとくし丸をまずは知っていただく、どれくらいのニーズがあるのか把握する目的として試しに呼ぶことが出来るのではないかと。杏林堂の都合が合わないかもしれないが試しに一回程であれば来ていただける可能性があるため試しに呼んでみることにすれば杏林堂と調整を行う。
- ・買い物支援の情報提供として在宅に困っている人がいる可能性はあるので個人宅に届けてもらうことが出来るものであれば情報提供をしてみても良いかもしれない。

■ニーズの把握について

- ・可美は買い物支援をテーマにして話し合いを行っているがその他の困りごともあるのではないかと。協議体委員でも可美地区での問題を把握できていない現状がある。R3に元気はつらつ教室の利用者と民生委員にアンケート調査を行ったがさらに範囲を広げて可美地区での問題を把握した方が良いのではないかと。一度可美地区を対象にアンケートを実施するのはどうか等の意見があった。新津地区で3,4年前にアンケート調査を行ったものがあるのでもし行うのであれば参考になるかもしれない。またアンケート調査を行うのであれば聞き取りの内容を詰めなければいけない、アンケートを取った結果出来ることも考えた上で調査を行わなければいけないとの意見もあった。

〈新津地区グループワーク報告〉

■新津地区の課題

- ・バス路線が減少しており高齢者の足の問題はある。南高校の生徒もほとんどが自転車通学。

⇒中田島車庫でパーク&ライドでバス利用ができないか相談したが上手くいかなかった。

- ・新津地区の人口構成を見ると過疎化が徐々に進んでいる。これまでは大丈夫で何とかなっていた事もこれからはどうか？先を見た取り組みを考えていく事も必要。

■シニアクラブの活動より

- ・シニアクラブは7町で330人ほどいるが、動ける人とそうでない人がいる。シニアクラブに来る人達はあまり買い物支援を必要としていない。
 - ・それよりも健康寿命を延ばす為の取り組みや活動の場を提供したい思いがある。閉じこもりがちな人を外に連れ出したい。その為には外出したいという気持ちになってもらう必要がある。
- (現在、卓球やゴルフを活動に取り入れている。外に出たくなるような環境作り)

■民生委員の活動より

- ・遠くに住む子が親を呼び寄せようとしても断ってしまう。住み慣れた所を離れたくないと思っている人が多い。
- ・ご近所の声はとても大切。介護認定を受け、支援が入っていても心配な人がいる。埋もれている人達を掘り起こす事も大切だと思う。

■スマホ講座について

- ・スマホ講座の話聞いて良いなと思った。持っている人は多くても使いこなせていない。使いこなせれば活動の場も広がるかもしれないし、災害対策など個人のリスク管理にも役立つ。また自分でもできるという気持ちになる(自立支援)

■買い物支援について

- ・とくし丸も知られていなかったなので、今ある物の情報を上げて知ってもらう事も必要では？
- ・去年やって終わりという形にせず、まだやれる事を積み上げていく

■移動支援

- ・移動支援については「許可が必要ない」とお墨付きをもらう必要がある。
- ・地区社協で家事支援を行っているが十分ニーズをカバーできていない。各町で助け合いサービスを展開できると良いが。
- ・長い目で見て取り組んでいく。今ある物の活用をする(もっと知る、うまく使う)

■今後の取り組み

- ・先を見た取り組み：制度や仕組み、先進的な取り組みについて勉強して何ができるかを考えていく。

	<p>⑤情報共有 特になし。</p> <p>4. 次回の協議体会議の日程について 日時：10月2日（月）9：30～11：00 会場：可美協働センター ホール</p> <p>5. 連絡事項 特になし。</p> <p>6. 閉会 可新生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の 見通し等</p>	<p>〈新津地区〉 誰のための／何のための／いつ／どこまでの外出支援を進めていくか、どのように地域で支援することが可能かを引き続き協議する。</p> <p>〈可美地区〉 ニーズ調査をしたいという意見があがっているため、既存のニーズ調査の結果を共有し、何のために誰を対象としたニーズ調査が必要なのか協議する。</p>